

下流を守るための高水管理

大雨が予想されて、洪水の危険性が高まってきたとき、嘉瀬川ダム管理支所は洪水警戒体制に入ります。周辺の雨の状況、ダム湖に入ってくる水の量、気象予報など各種データを収集します。

入手したデータを基に今後ダムに入ってくる水の量を予測し、流れ込む洪水を一時的に貯め、安全な水量だけをダム下流へ流す洪水調節を実施します。

放流を行う前には、下流の巡視を行い安全確認、関係機関への連絡、ゲートの点検などの準備を行います。洪水が発生すると、平日、休日、昼夜を問わず職員が体制を整え、洪水対応を行います。

1 気象、水文データ収集



洪水調節を行うには、今後の雨の降り方の予測が最重要です。その予測を行うためにレーダーや雨量・水位計7カ所からデータが集められています。

2 放流設備の点検



ゲートなどの点検をし、正常に放流が行えるように備えます。

3 下流への巡視、警告

降雨量・流入量の予測
洪水調節計画の決定



サイレンや情報表示板を使用して、下流の人々に放流することを伝えます。また、釣りや川遊びをしている人がいないかを警報車で巡視します。

4 放流開始



ダムに入ってくる水量が増加し、一定の水位を超えると予想されるとき、放流を開始します。

5 洪水調節

さらに、ダムに入ってくる水量が増えたときに、洪水の一部をダムに貯めることで、洪水を調節し、下流地域の被害を軽減させます。

さらにダムに入ってくる
水量が増えると



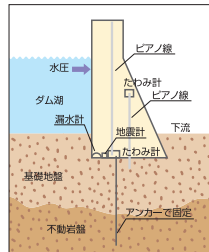
ダムを機能させるための平常管理

洪水の時の「高水管理」。平常時の農業用水・都市用水・河川に必要な水の補給等行う「低水管理」、ダム機能の維持のための「施設管理」という3つの管理があります。大雨が降ったときに適切な対応を行うためにも

通常の管理や点検はとても大切です。

ダムの機能をいつでも最大限に発揮できるように、管理業務を行っています。

1 ダムの本体の点検



ダムの中の計測機器



たわみ計



地震計



漏水量点検

ダムは季節や朝夕の気温の変化、貯水池の水位、水温などによって変化しています。この変化をきちんと測定するための様々な測定機器がダム内部には付けられていて、異常を早く発見するため、日々点検を行っています。

2 施設の維持・保守・巡視

ゲートや水位計、雨量計などの各施設が正常に作動するかを定期的に点検・保守を行っています。貯水池内に異常がないかの巡視も行っています。



ゲートの点検



雨量観測所の点検



貯水池内の巡視

3 ダム周辺の調査・点検

貯水池内の水質や水温などを調査し、異常がないかを調べます。また、貯水池内に堆積した土砂の量を調べたり、流木・ゴミの除去、ダムが出来たことで環境の変化を把握するため定期的に環境調査を行います。



流木・ゴミの除去



水質調査



環境調査